



理学部同窓会 だより

想

2020年5月1日
発行者：
学習院大学
理学部同窓会



研究室紹介



嶋田透 教授

私は昨年2019年4月に生命科学科に着任しました。この一年、不慣れでまごつくことも多かったのですが、理学部の教職員の皆さんには、いつもご助言や励ましをいただき、感謝しております。また、同窓会の皆様には、昨年11月30日に開催された技術交流会で私の研究を紹介する機会をいただき、大変お世話になりました。

私の研究分野は、カイコとその近縁種を用いた分子遺伝学です。カイコは、動物で最初にモデルの法則の検証に使われた材料であり、日本の遺伝学の起源となった生物でもあります。カイコの遺伝学は、欧米で進んだショウジョウバエよりも長い歴史があり、日本が主導権を握っている分野です。遺伝学はモデルの法則を検証していた古い時代から、DN

生命科学科 嶋田研究室

A・RNAとタンパク質の機能解明を中心とした分子遺伝学の時代へと移行しました。カイコでも1990年代後半から全ゲノムの解読が進められ、私を含む日本のグループが2004年に世界初の概要配列を明らかにしました。その後、私たちは国立遺伝学研究所などと共同で長鎖読取り型の次世代シーケンサーにより、染色体レベルの連続した配列を高精度に解読し、昨年2019年に最新のカイコゲノム情報を発表しました。又、クワコやシンジュサンなどカイコに近縁の野生蛾類のゲノムも、同じ方法で解読しています。

学習院大学に来てからの1年間は、助教の李博士や学生の皆さんとともに、カイコの行動の変異や、シンジュサンの体色・繭色の変異など、進化生物学的に面白い形質に着目して、その遺伝子を調べています。もちろんゲノム情報を最大限に活用しています。生命科学科は単なる生物学ではなく、分子レベルで生命現象を突きつめる研究を行うところに特徴があります。私

の研究室でもゲノム編集を行う設備と技術を持っているので、きちんと遺伝子を特定・単離し、それを足掛かりに分子機構を解き明かしてゆきます。

学習院大学生命分子科学研究所の初代所長を務められた故三浦謙一郎先生の最大の業績は、カイコの細胞質多角体病ウイルスというRNAウイルスを用いて、RNAの5'末端にキャップ構造が存在することを突き止めた成果です。私が東大の大学院生だった1980年代半ば、東大工学部におられた三浦先生に、進路の相談に伺ったことがありました。いま、三浦先生が創設された南6号館2階の研究室で私が仕事をさせていただいているのも、何かの縁を感じます。学習院大学理学部の偉大な先人たちに負けないような研究と教育を進めたいと思いますので、ご指導・ご支援をよろしく願います。



クワコ イチジクカサン エリサン
(カイコガ科) (ヤママユガ科)

交尾中の蛾類 (いづれも上が♂、下が♀ : 嶋田研撮影)

訃報

理学部同窓会会長服部充雄氏(昭42化)は、3月13日逝去されました。平成26年に第11代会長として就任いただき、現在2期目でご活躍中の病でした。多大なご貢献に感謝いたし、すとともに謹んでお悔やみ申し上げます。

服部会長を悼む

前理学部同窓会長 久瀧朝宏(昭42物)



理学部同窓会会長
服部充雄氏

3月14日朝、突然の電話連絡を受け、理学部同窓会の会長、服部さんが逝ったことを知りました。腹部の手術を受け、その後順調に経過していると本人からも聞いておりましたので、確認の言葉も出ず、そのまま電話を切りました。謹んでここにお悔やみを申し上げます。

彼は私と同期の昭和38年入学(化学科(私は物理))、同42年卒業で、勉強が大変でできました。修士課程修了後、助手を経た。日立製作所那珂工場に入社、医療機器関係の開発に従事し、この業界で活躍されました。平成に入ってから学習院校友

会の役員となり、やがて理学部同窓会の会長に就任され、活動されるようになりました。

彼の同窓会運営のやり方は独特で、例えば電話を用いて常任幹事たちを自分の考え方で説得し、議論を押し進めて、考え方を徹底して行く方式でありました。だから意見がもめることもなく、会議が短時間で進められたと思います。最近の彼の成果として、まず『理学部同窓会資金の確保』が挙げられます。理学部同窓会の皆さまからご協力を得て、同窓会の活動資金を集めることが目的で、これを基に6つの委員会(技術交流、就職支援、会誌、広報、組織、事務)を維持し、当初の目的通りに同窓会を運営しました。最近の成果としてさらに『理学部同窓会賞の授与の推進』があります。理学部4学科から一人ずつ、合計4人に毎年卒業式と同時に理学部同窓会賞を授与してきました。優秀な卒業生を対象としてきたこの制度は、学生にも教授会にも好評であり、今後このような形で受け継いで行かれるだろうと思います。いづれにせよ、同窓会活動にこのように成果を上げておられますので、惜しい方が逝かれたと思います。重ねて申し上げますが、ここに謹んでお悔やみを申し上げます。



寄稿

お互いの違いを知り、そして認め合う

東京経済大学教授 田島博和 (昭63数)

私は2018年4月から2年間、東南アジアで市場調査に従事しております。マレーシア・タイ・ベトナムの大学に客員の研究員や教授として籍をおき、北は雲南から南はジャカルタまで、東はダバオから西はインドのチェンナイに到る域内および周辺地域の合計およそ30都市で、地元市場や小売店を視察したり、ごく普通のご家庭を訪問してアンケート調査および台所や冷蔵庫内の写真を撮ったりしています。国や民族や宗教などの違いを踏まえた上で、一般的なご家庭の購買や消費、更にその背後にある考え方や文化などを捉えるのが目的です。

「当初の目的の6割できたら御の字です。また様々なご縁を大事にしなさい。全く予想していなかった素晴らしい出会いがあります。」これは多くの先生方が異口同音に仰って下さった言葉ですが、まさにその通りでした。フィリピンのダバオではお願いしたガイドさんのお嬢さんが人気アイドルでして、ご自宅を本人から一時間ほど、ご自身の想いや芸能事情についてお伺いできました。彼女自身は高校



フィリピンでアイドルと

またマレーシアのイポーでは、中華系マレーシア人のイスラム教徒が通うモスクを訪問しました。礼拝堂は反った瓦屋根を持つ中国南部の寺院風で、さらに天蓋のアラベスク模様は仏教の蓮をモチーフにしています。案内して下さった方曰く、泥(浮世)に根を張って白く美しい花(常世)を咲かす姿が、イスラムの教えにも通じるのだそうです。このモスクでは中秋節や春節の催しも行われるそうです。私はそれまで「信仰心が高まるほど文化と信仰は分かち難くなる」と考えていたのですが、「中華の文化とイスラムの信仰を正し

く識別し、どちらも尊重しなければならぬ」という氏のお考えは私にとって非常に新鮮でした。因みにこの方の本職は脳神経外科医で、若い時分は東京都内の有名病院で研修されたそうです。

各地で様々な方にお会いし、皆さんのお気持ちに触れるにつれ、「仮に自分と違いがあっても決してそれを否定せず尊重する」重要性を深く実感する様になりました。アメリカの思想家エマーソンが「無知が恐怖を生む」と述べていますが、今後も冷静なアタマを以て事実を知り、出来るだけ合理的な説明を与え、そして熱いココロを以て違いを尊重し、相互の信頼や友好に資して行ければと思います。



イスラムのモスクと天蓋のアラベスク模様



同窓会活動紹介

技術交流会

理学部同窓会 永山淑子(昭53化)

第100回の技術交流会が2020年11月30日(土)に開催され、約30名の参加のもと生命科学科の嶋田透教授と学習院大学理学部化学科OBである東北大学東北メディカル・メガバンク機構バイオバンク生命科学分野の寺川貴裕助教にご講演いただきました。

技術交流会は、1997年に当時の理学部同窓会会長草野和雄氏らの提案で始められ、第一回は学習院大学物理学科教授(当時)の菅忠義先生のご講演でした。以後、時代とともに少しずつ形を変えながら継続的に開催しています。これまで延べ150人の講師の方々にご講演いただき、毎回平均30名ほどの方にご参加いただいております。

第100回を含め過去の技術交流会の内容は全て理学部同窓会ホームページに掲載しています。開始当初は、物理科や化学科のOB/OGが中心となって講師にあたっていました。各界で活躍している学習院大学理学部のOB/OGから講演いただくことで学習院大学の底力をあらためて知る機会にもなっています。最近では「今の学習院大学理学部を知る」ということで、各学科の

若手の先生方から研究内容をご講演いただくことが増えてきました。最先端の研究内容に触れる機会は日常生活ではなかなか得られるものではないので、大変貴重な機会となっております。

2010年からは見学会を取り組みに加え、座学だけではなくその時々話題となっている研究機関や工場を見学する楽しみも加えてきました。講演会・見学会ともに終了後には懇親会を併せて開催しており、久しぶりに会った同窓生同士や現役の学生さんと高齢の同窓生との間で活発に意見を交換しあったりする楽しい会もなっています。

技術交流会に参加いただいた方々からは大変好評をいただいておりますが、一方で、年々参加者が減少しており、特に若い世代の参加が少ないことに大きな危機感を抱いております。皆様に参加しやすい形に変えるべくと計画してまいります。皆様におかれましては、まずはお誘いあわせの上ぜひご参加ください。委員会にもご協力のほどよろしくお願いいたします。

